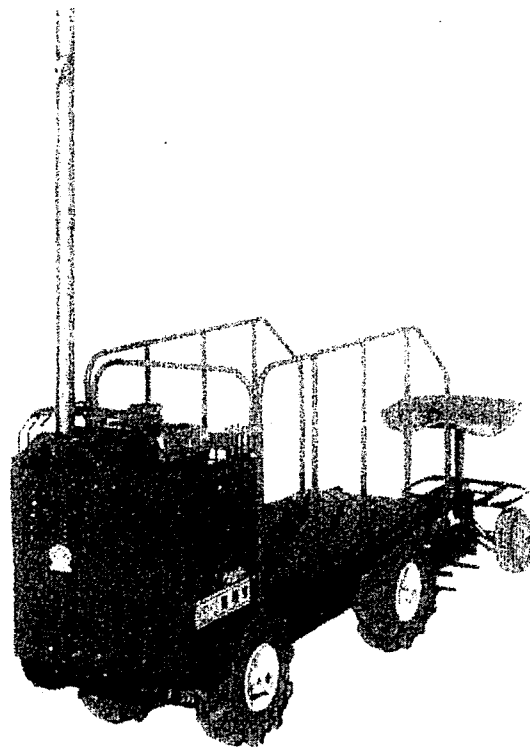


△IL/R-集穫車

KS-3C-6型

取扱説明書



関東農機株式会社

はじめに

このたびは本製品をお買い上げ頂きましてありがとうございました。

この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。

ご使用前によくお読みいただき十分理解され、お買い上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためにこの冊子をご活用ください。

また、お読みになった後必ず大切に保管し、わからないことがあった時には取り出してお読みください。なお、製品の仕様変更などにより、お買い上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

▲ 安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■ 注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱上の注意事項について次のように表示しています。

▲ 危険：注意事項を守らないと死亡または重傷を負うことになるものを表示します。

▲ 警告：注意事項を守らないと死亡または重傷を負う危険性があるものを表示します。

▲ 注意：注意事項を守らないと怪我を負うおそれがあるものを表示します。

重要：注意事項を守らないと損傷や故障のおそれがあります。

補足：その他、使用上役立つ補足説明をしています。

▲ 安全に作業するために

運転する前に.	1
始動するとき.	1
移動・作業するとき.	2
作業が終わったとき.	2
警告ラベルとその取扱い.	5

サービスと保証について

サービスと保証について.	6
----------------------	---

1. 部品の名称と装置の取扱い

装置の名称.	7
1. クラッチレバー.	8
2. 主変速レバー.	8
3. 副変速レバー.	8
4. エンジンスイッチ.	8
5. リコイルスタータ.	9
6. チョークレバー.	9
7. 燃料コックレバー.	9
8. スロットルレバー.	9
9. 燃料キャップ.	9
10. 燃料ゲージ.	10
11. 排気管.	10
12. ブレーキペダル (前).	10
13. ブレーキペダル (後).	10
14. サイドカバー (右).	10
15. フロントフェンス.	10
16. サイドフェンス.	11
17. リアフレーム.	11
18. イス.	11

2. 作業前の点検

調子よく安全に作業するために.	12
-------------------------	----

3. 上手な運転のしかた

エンジンの始動のしかた.	15
エンジンの停止のしかた.	16
運転のしかた.	16

旋回のみしかた.	16
リアフレームの脱着.	17
着座位置の調整のしかた.	17
車輪幅の調整.	17
サイドフェンスの取扱い.	18
ブレーキペダル (前) の取り外し方.	18

4. 簡単な手入れと処置

エンジンオイル.	19
ミッションオイル.	19
エアクリーナエレメントの清掃.	20
フィルタポットの清掃.	20
点火プラグの調節・清掃.	20
クラッチの調整.	21

5. 作業が終わったら

長期格納時の手入れ.	22
タイヤ空気圧の調節.	22
燃料の抜取り.	22
洗浄時の注意.	23

6. 運搬するとき

自動車(トラック)への積込み、運搬.	24
----------------------------	----

付記

主要諸元.	25
標準付属部品.	26
主な消耗部品一覧表.	26

トラブルと処置

エンジンが始動しないとき.	27
エンジン回転が上がらない、 不安定、出力が不足するとき.	27
エンジンが揺れる、異音が発生する.	27

⚠ 安全に作業するために

本機をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み理解した上で安全な作業を行って下さい。安全に作業するため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文中で「警告サイン」として説明のつど取り上げております。

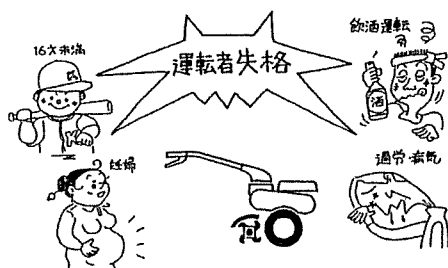
運転する前に

■使用する人は

機械の運転操作、特に主クラッチの操作はすばやくできるよう、よく練習し、十分に慣れてから作業すること。

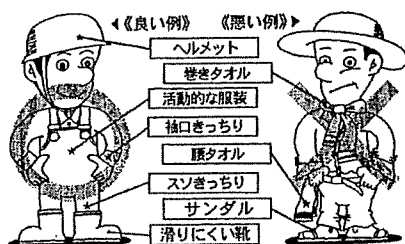
次の項目に該当する場合は機械を使用しないでください。

- ☆本書及びラベルの内容が理解できない人
- ☆視力不足等のため表示内容が読めない人
- ☆飲酒時や体調が悪い時または妊娠中の人
- ☆16歳未満の人



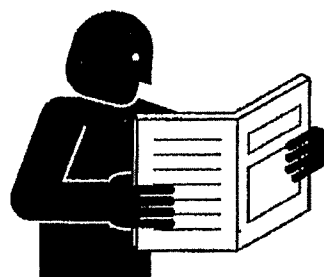
■使用する人の服装は

回転部分や操縦装置に引っかかり事故の原因になる、だぶついた服、腰タオル等はやめてヘルメット・安全靴・保護メガネや手袋などを必要により着用する。



■他人に貸すときは

事前に運転のしかたを教え、「取扱説明書」を必ず読んでもらうこと。



■給油・注油するとき【火気厳禁】

燃料の給油・補給は必ずエンジンを停止し、こぼれた燃料はふきとり、煙草を吸ったり火気を近づけない。

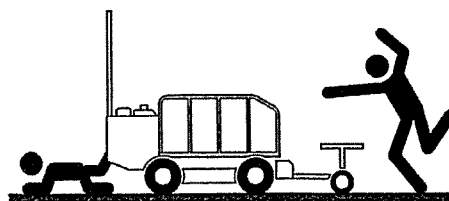


始動するとき

■エンジンをまわすとき

必ずクラッチレバーと主変速レバーは「中立」にして付近に人(特に子供)をちかづけない。

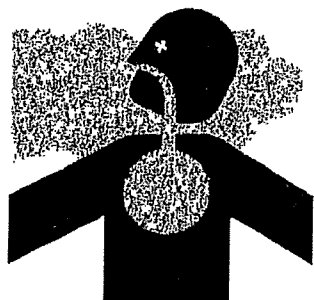
もしクラッチや主変速が入っていると車体が急に動きだし事故になる恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

■排気ガスに注意

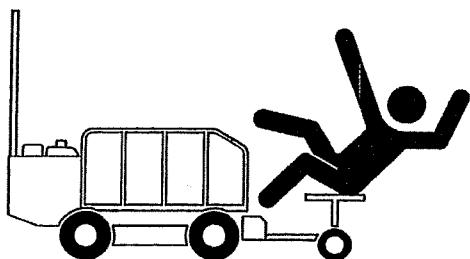
排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがある換気の悪い所（ハウス、車庫等）では使用しない。



移動・作業するとき

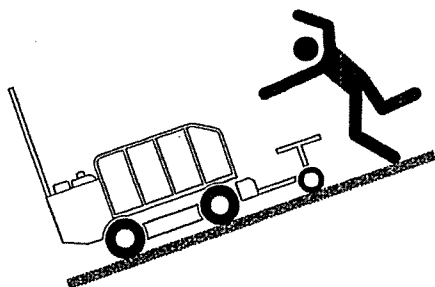
■発進するとき

車速は最低速にし、クラッチレバーの操作は「高速」または「低速」へはゆっくりと行う、「中立」へは素早く行う。この操作を習熟した上で使用してください。急発進は後方に倒れて怪我をする恐れがあります。



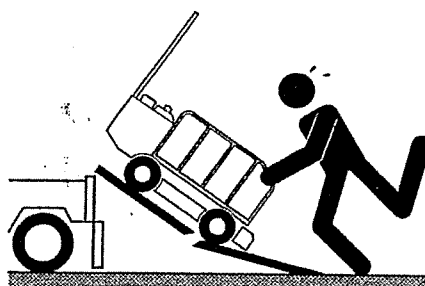
■坂道を移動するとき

坂道、圃場の出入り等の途中でクラッチや主変速を「中立」にすると、機体がおもわぬ方向に進み危険です。変速操作は機械が平坦な場所以外では行わない。また、坂道や凹凸、カーブの多い路上で高速運転すると、転倒したりして危険ですから必ず低速運転のこと。



■積み降ろしするとき

アユミ板はすべり止めのついた機体重量に耐えられるもので、トラックの荷台の高さ[1]に対しアユミ板の長さ[4]以上のものを使用し、確実に固定すること。足元に注意し車速は最低速で上りは「前進」下りは「後進」で行うこと。また、途中でクラッチや主変速を「中立」にしないこと。



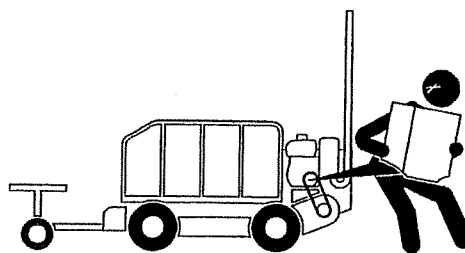
作業が終わったとき

■掃除をするとき

車輪の泥を落としたり洗浄する時は、必ずエンジンを停止すること。

■カバー類は必ずつける

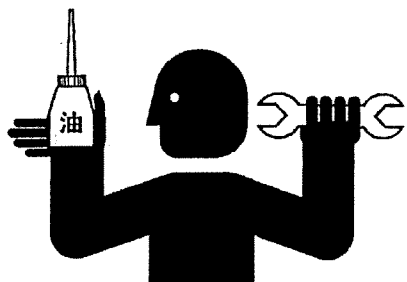
カバーなどの防護装置を取り外す場合は必ずエンジンを停止して、作業後は取り外したカバー類は元通り組み付けること。



⚠ 安全に作業するために

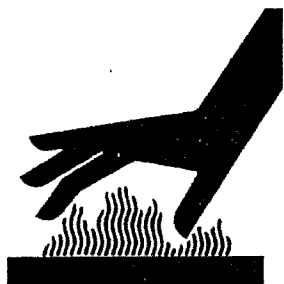
■1年毎の定期点検を

機械の整備不良による傷害事故などを未然に防止するため1年毎に定期点検・整備を受け、特に燃料パイプや電気配線は2年毎に交換して安全に作業出来るようにする。



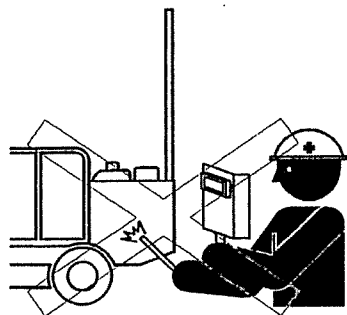
■点検・整備をするとき

点検・整備は平坦な所に停車し、必ずエンジンを止め、高温部が冷めてから行う。



■機械の改造禁止

機械を改造しないこと、改造すると、機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながる。

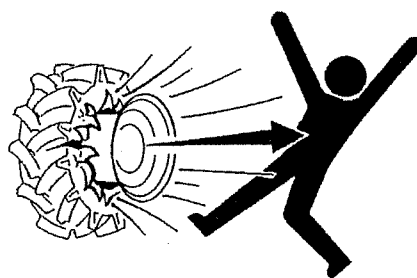


■タイヤの整備

タイヤの空気圧は取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。

タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。

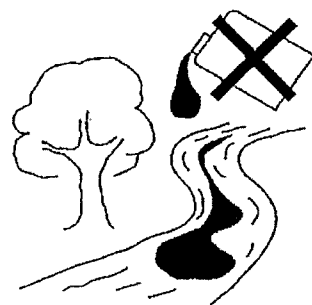
タイヤ、チューブ、リムなどの交換・修理は必ず購入先にご相談ください。(特別教育を受けた人が行うように法で決められています)



■廃棄物の処理について

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。機械から廃液を抜く場合は容器に受けてください。地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。

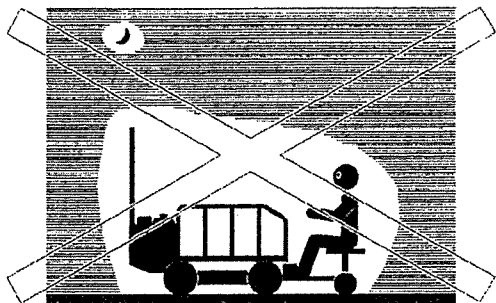
廃油、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者に相談して、所定の規則に従って処理してください。



安全に作業するために

■夜間作業の禁止について

本機は夜間作業灯を装備していませんので、夜間作業はしないでください。おもわぬ事故になる恐れがあります。



■公道走行の禁止について

本機は道路運送車両法の小型特殊自動車には該当しません。本機で公道を走行すると道路運送車両法に違反します。公道を走行するときは、トラックに積んで運搬してください。

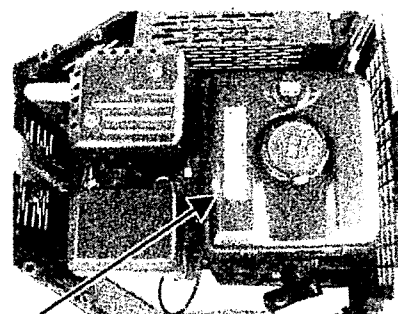
▲ 安全に作業するために

警告ラベルとその取扱い

〔ラベルの手入れ〕

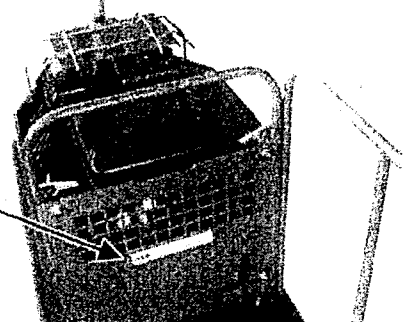
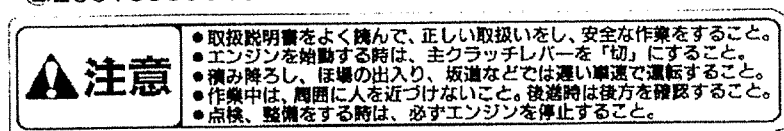
- (1) 警告ラベルは、いつもきれいにし、傷つけないようにしてください。
- (2) 警告ラベルが破損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し新しいラベルに取り替えてください。
- (3) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを完全にふき取り乾いた面にして元の位置に貼ってください。

①KW56256AA



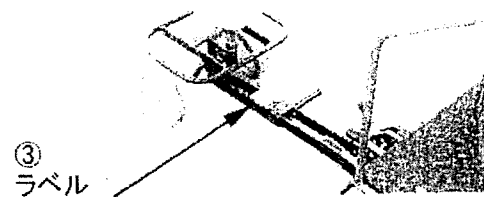
①ラベル

②236100000451000



②ラベル

③346200000805000



③ラベル

サービスと保証について

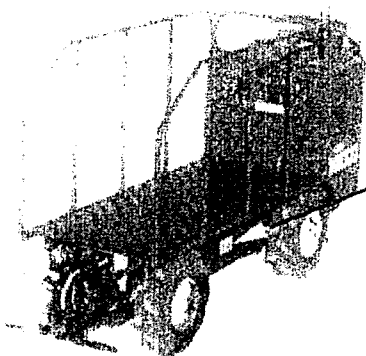
◆ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについて、ご不満・ご要望・ご意見などがございましたら、お買上げいただいた購入先または当社の〔ご相談窓口〕にご遠慮なくお寄せください。

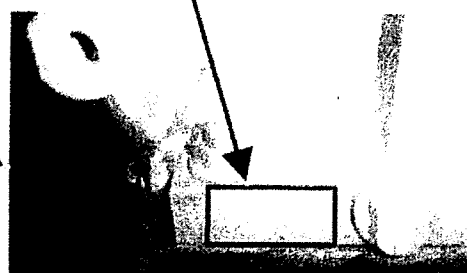
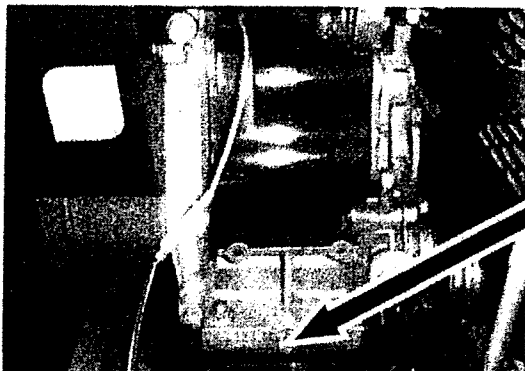
その際(1)型式名①と製造番号②

(2)搭載機関の型式名③と機関番号④

を併せてご連絡ください。



農業機械の種類	ヘルパー集穫車	← ①
型式名	KS-3C-6	
区分		← ③
搭載機関 型式名	GB130LN	
搭載機関 連続定格出力	2.3kW (3.1PS) / 1800rpm	← ②
製造番号		
製造元：関東農機株式会社		

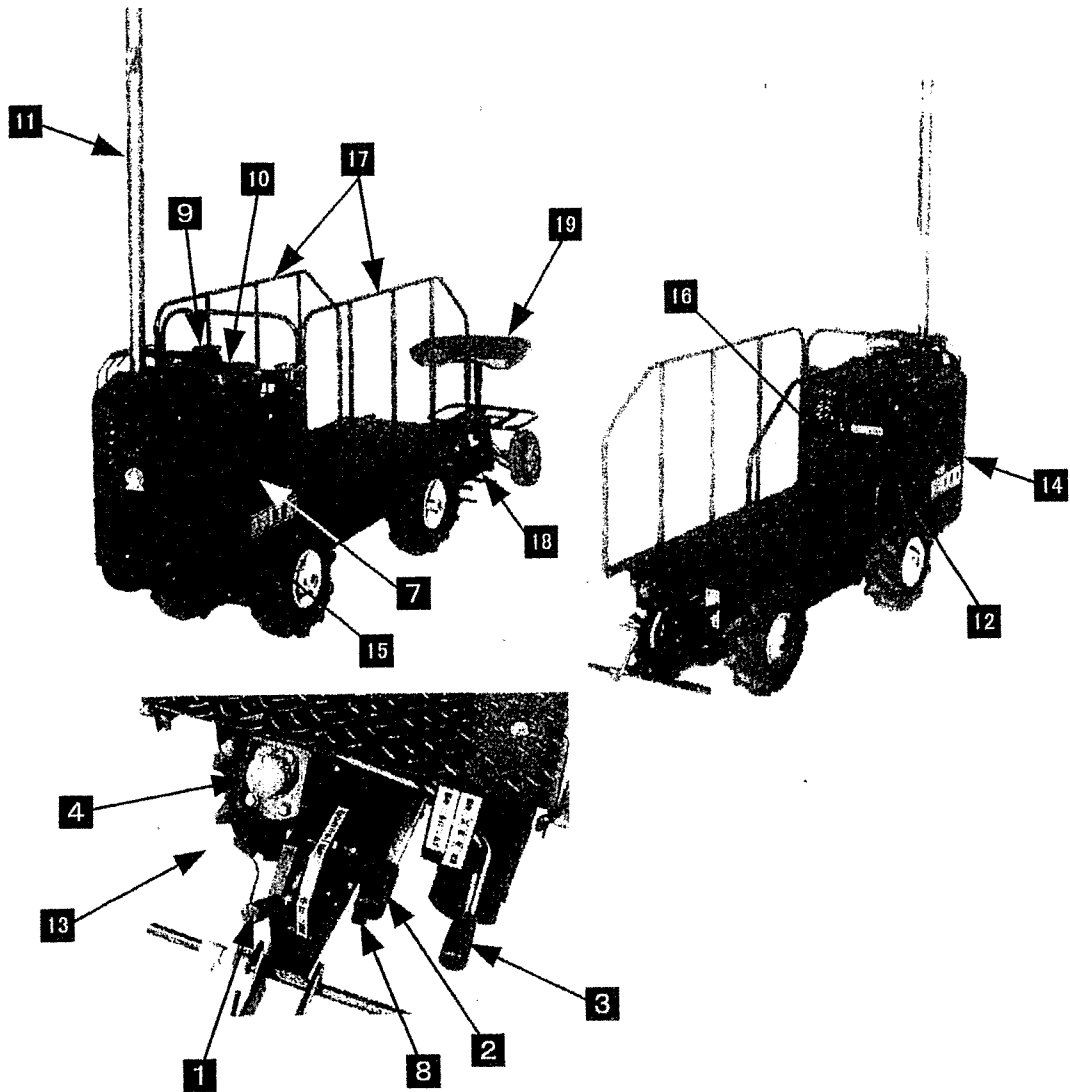


⚠ 警告

- * 機械の改造は危険ですので、改造はしないでください。
- * 機械を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

1. 部品名称と装置の取扱い

装置の名称



- 1 クラッチレバー
- 2 主変速レバー
- 3 副変速レバー
- 4 エンジンスイッチ
- 5 リコイルスタータ
- 6 チョークレバー
- 7 燃料コックレバー
- 8 スロットルレバー
- 9 燃料キャップ
- 10 燃料ゲージ

- 11 排気管
- 12 ブレーキペダル(前)
- 13 ブレーキペダル(後)
- 14 サイドカバー(右)
- 15 サイドカバー(左)
- 16 フロントフェンス
- 17 サイドフェンス
- 18 リアフレーム
- 19 イス

1. 部品の名称と装置の取扱い

1 クラッチレバー

エンジンからの動力を断続します。

1. レバーを前方(「低速」側)に操作するとクラッチが入り、低速走行します。
2. レバーを下方(「高速」側)に操作するとクラッチが入り、高速走行します。
3. レバーを中間位置(「中立」)に操作するとクラッチが切れ停止します。



警告

- * エンジンを始動する前に、必ずレバーを「中立」にしてください。
- * レバーを操作するときは、エンジンの回転を低速にし、まわりの安全を確認してからゆっくりと行ってください。急発進は危険なので、絶対にしないこと。

2 主変速レバー

主変速レバーの操作は、クラッチレバー「中立」で行います。

1. 「前進」、「中立」、「後進」を切替えます。

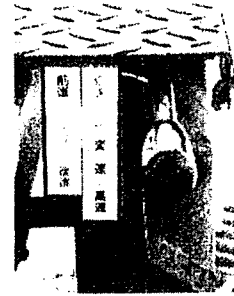


3 副変速レバー

副変速レバーの操作は、クラッチレバーを「中立」で行います。

1. 副変速レバーを「高速」または「低速」に切り替えることにより、走行速度を前進4段、後進4段の変速が可能です。

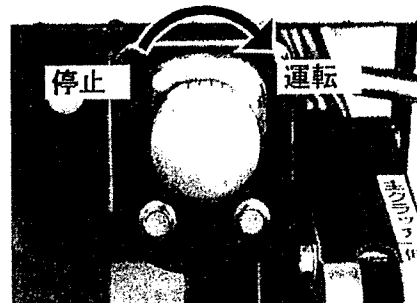
	クラッチレバー	副変速レバー
1 速	「低速」	「低速」
2 速	「低速」	「高速」
3 速	「高速」	「低速」
4 速	「高速」	「高速」



4 エンジンスイッチ

エンジンの運転・停止に用います。

1. ボタンを押しながら右に回して「運転」の位置にすると、エンジンの始動が可能です。
2. ボタンを押すと、自動で「停止」の位置に回転しエンジンが停止します。



1. 部品の名称と装置の取扱い

5 リコイルスタータ

エンジンの始動をします。

1. リコイルを引っ張ると始動します。

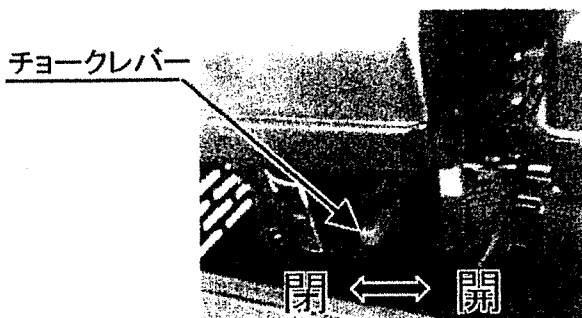


リコイルスタータ

6 チョークレバー

寒冷時にエンジンがかかりにくい時使用します。

1. 始動前…レバーを前方に操作する(チョーク閉)
2. 始動後…レバーを後方に操作する(チョーク開)



7 燃料コックレバー

燃料タンクからエンジンへの燃料の「供給」・「停止」をします。

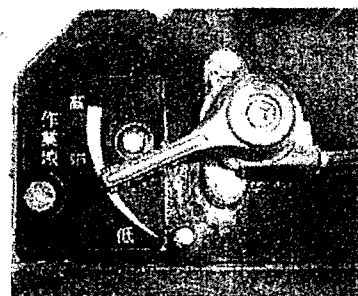
1. 「C」(閉)…燃料停止
2. 「O」(開)…燃料供給



8 スロットルレバー

エンジン回転の調節をします。

1. 「高」の方向に回すと回転が上がります。
2. 「低」の方向に回すと回転下がります。



9 燃料キャップ

燃料の種類	規定容量
自動車用無鉛ガソリン	2.5L

警告

- * 給油中はエンジン停止・火気厳禁・くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
- * 燃料がこぼれた時はきれいにふき取ってください。

重要

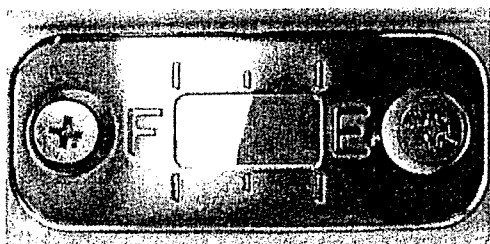
- * 燃料タンク内にゴミや水及びその他異物が混入しないように注意してください。給油時は必ずこしきを使用してください。

1. 部品の名義と装置の取扱い

10 燃料ゲージ

燃料ゲージで目安の残量を確認して下さい。

1. [E]側にゲージ(赤)があると燃料が減っています。
2. [F]側にゲージ(赤)があると燃料はあります。



11 排気管



* 排気管に直接手を触れないでください。火傷をするおそれがあります。

12 ブレーキペダル (前)

荷台の上で作業中、一時停止をする時に用います。

1. ペダルを踏むと、クラッチが切れ、走行が停止します。ペダルを放すと動きます。収穫作業時など、不要なときは、取り外すことができます。

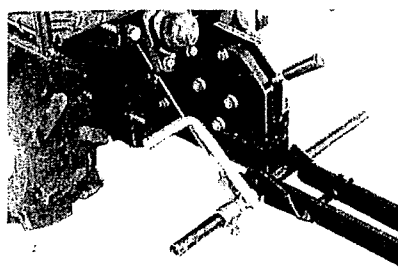


* ペダルの操作は、ゆっくり行ってください。早く操作すると急停車して危険です。
* 高速走行中は、使用しないでください。

13 ブレーキペダル (後)

イスに座って作業中、一時停止をする時に用います。

1. ペダルを踏むと、クラッチが切れ、走行が停止します。ペダルを放すと動きます。



14 サイドカバー (右)

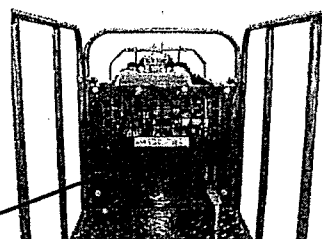
15 サイドカバー (左)

16 フロントフェンス

メンテナンスを行なう時に、取り外すことができます。



サイドカバー



フロントフェンス



* カバーを取り外すときは、必ずエンジンを停止してください。
* メンテナンスを行なう時以外は、カバーを外さないでください。

1. 部品の名称と装置の取扱い

17 サイドフェンス

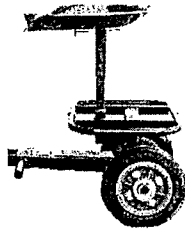
可倒式になっているので、荷降ろしがスムーズに行えます。また、簡単に取り外すことも出来ます。

18 リアフレーム

使用する作業に応じて、着脱が行えます。また、ピンの差し替えにより、4段階(5cm間隔)の前後調節ができます。

19 イス

使用する作業に応じて、上下2段階の調節が出来ます。



2. 作業前の点検

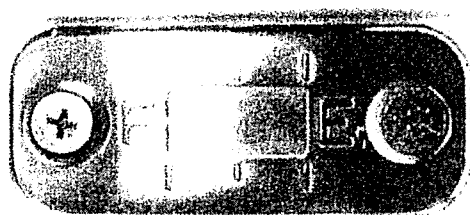
警告

- * 給油中はエンジン停止・火気厳禁・くわえ煙草での給油はしないでください。
- * 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
- * 平坦な場所に機械を安定させて点検してください。
- * 燃料は規定量以上入れないでください。

調子よく安全に作業するために〔詳細は「簡単な手入れと処置」の章参照〕

1. 燃料

- 自動車用無鉛ガソリンを補給します。
- タンク容量… 2.5 リットル
- 給油後は燃料キャップを確実に締めます。

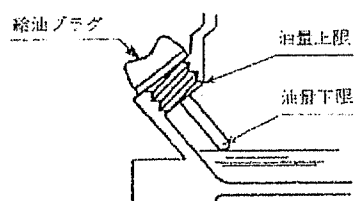


2. エンジンオイル

- レベルゲージで規定量あるか点検します。
- 不足している場合は、エンジンオイルを補給します。

春—秋…30#又は10W-30

冬…20#又は10W-30



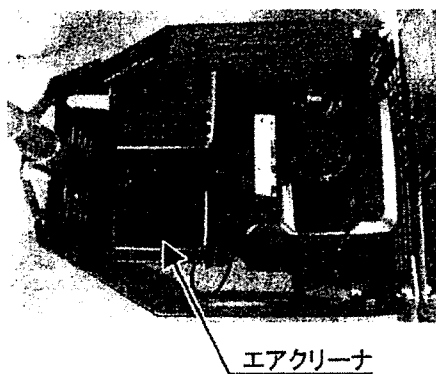
3. ミッションオイル

- 検油口まであるか点検します。不足している場合はミッションオイルを補充します。
(80#又は90#)



4. エアクリーナ

- エアクリーナエレメントが汚れていないか、またはゴミが付着していないか点検します。



2. 作業前の点検



- *タイヤの空気圧は取扱い説明書に記載している指定圧力を、必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。
- *タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂の恐れがあります。
- *タイヤ、チューブ、リムなどの交換・修理は必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行うように、法で決められています)

5. タイヤ

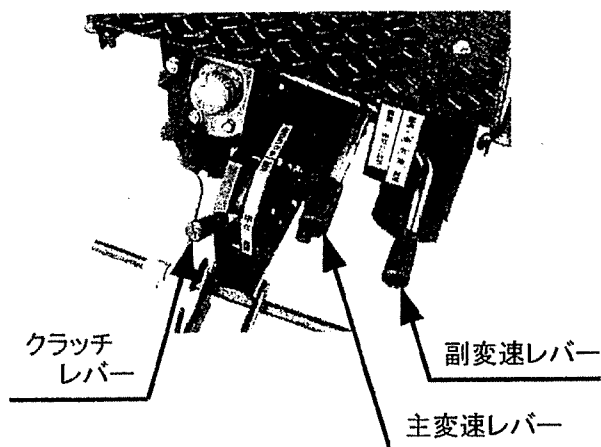
- 空気が抜けていないか、また損傷がないか点検します。
- 適正気圧…120～140kPa
(1.2～1.4kgf/cm²)

7. クラッチレバー

- クラッチの「高速」・「中立」・「低速」が確実に行えるか点検します。

8. 主変速レバー・副変速レバー

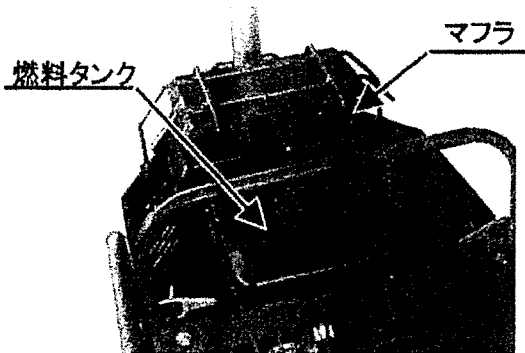
- 変速が案内板の表示位置で確実にできるか点検します。



2. 作業前の点検

8. エンジン周辺部

- マフラの中や周りに、草や葉及び可燃物が付着していないか確認します。
- 燃料タンクの周りにガソリンが付着していないか確認します。



10. 電気配線

- 被覆が溶けたり破れていないか、また配線がはさまれていないか点検します。

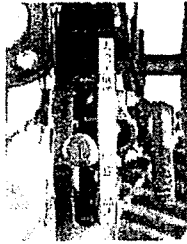
11. その他

- エンジン、ミッションなどから油もれがないか点検します。
- 各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
- 各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。

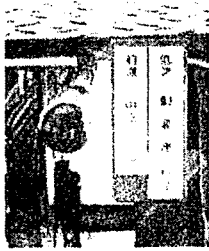
3. 上手な運転のしかた

エンジンの始動のしかた

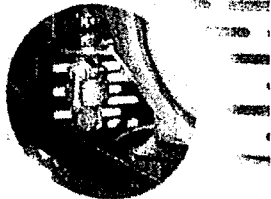
1. クラッチレバーを[中立]にします。



2. 主変速レバーを[中立]にします。



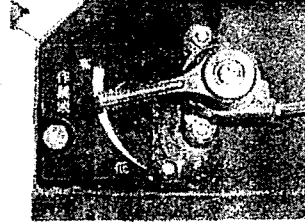
3. 燃料コックを[O] (開) にします。



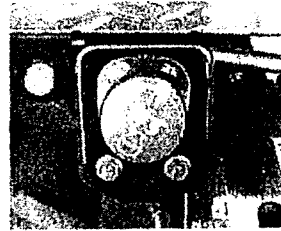
4. チョークレバーを[閉]にします。



5. スロットルレバーを[始動]にします。



6. エンジンスイッチを[運転]にします。



7. リコイルスタータハンドルを握って、勢いよく引っ張ります。

エンジンが始動したら、リコイルスタータハンドルを静かに元に戻してください。

8. エンジンの運転状態を確認しながら、チョークレバーを徐々に[開]の位置に戻します。

9. 2～3分暖気運転してから、作業を始めてください。

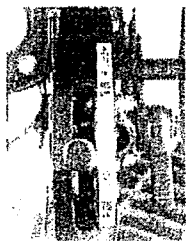
警告

- * 排気管の排気出口方向に、燃えやすい物がないか確認してください。
- * リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物・傷害物がないか確かめてから始動してください。
- * エンジンの運転中は、危険ですからマフラーやそのほか操作レバー以外の物には、触れないでください。
- * 夜間作業はしないでください。

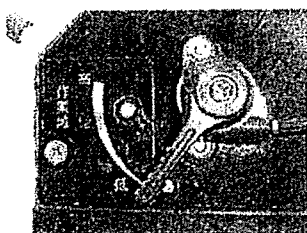
3. 上手な運転のしかた

エンジンの停止のしかた

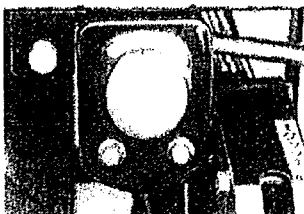
1. クラッチレバーを[中立]にします。



2. スロットルレバーを[低]にします。



3. エンジンスイッチを押して[停止]にします。



4. エンジンが停止します。

5. 燃料コックを[C](閉)にします。



警告

* 停止直後はマフラーが熱くなっています。手を触れないでください。

重要

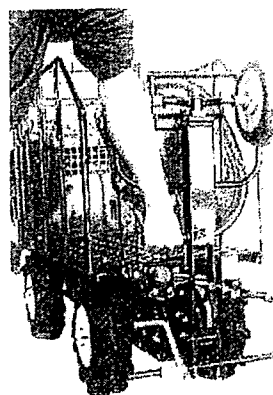
* エンジンの回転を、長時間「低」の状態で使用すると、ヘッドや点火プラグにカーボンがたまり、エンジンが始動しづらくなったり、始動できなくなるおそれがあります。作業終了後は、エンジンを停止する前に、エンジンの回転を「高」にして30秒ほど運転し、たまったカーボンを燃焼してから、エンジンを停止してください。また、50時間使用ごとに10分以上エンジンを高回転で運転して下さい。

運転のしかた

1. クラッチレバーが[中立]の位置にあることを確認してください。
2. スロットルレバーを[低]にし、主変速レバーと副変速レバーを必要な位置にします。
3. クラッチレバーを[低速]または[高速]にゆっくりと動かすと発進します。
4. スロットルレバーを操作し、作業にあった速度に調整します。

旋回のしかた

1. 後フレームを前方に引き上げて折りたたみ、ニギリパイプを持って後部を持ち上げ(後輪を浮かせ)旋回してください。

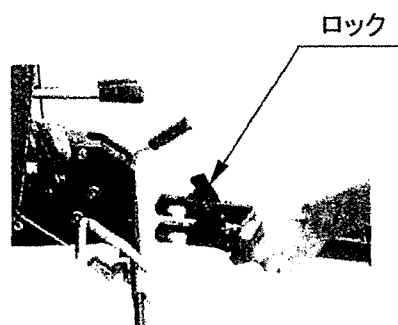


3. 上手な運転のしかた

リアフレームの脱着

使用する作業に応じて、後フレームを脱着することができます。

1. ロックを持ち上げ、後フレームのフックを外して、本体から取り外します。
2. 取付けるときは、ロックを持ち上げながら、後フレームのフックを本体に掛け、ロックを押し下げます。



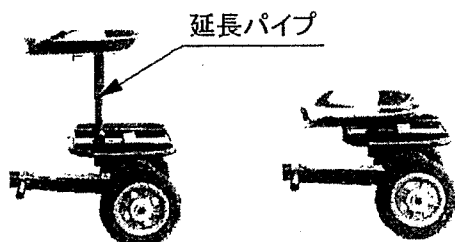
注意

* 後フレームのロックは確実に行ってください。ロックが不完全な場合、作業中に後フレームが外れ、けがをする恐れがあります。

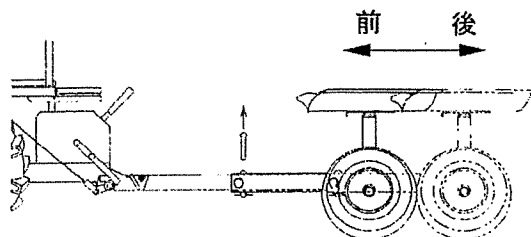
着座位置の調整のしかた

使用する作業に応じて、イスの高さ調整、前後調整ができます。

1. 延長パイプを着脱し、イスの高さを調整します。

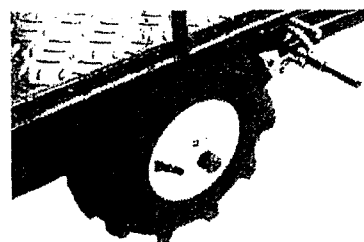


2. スナップピンを外し、マルアタマピンを抜き取りま
す。後フレームを前後にスライドさせ、適当な位置
でマルアタマピンを差し込み、スナップピンで止め
ます。



車輪幅の調整

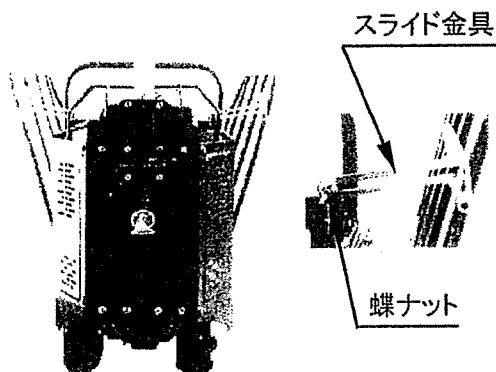
車輪の幅はタイヤの外幅で300, 350, 390mmの3段階に調節できます。車軸ピンを止める穴位置を変更して、調節してください。



3. 上手な運転のしかた

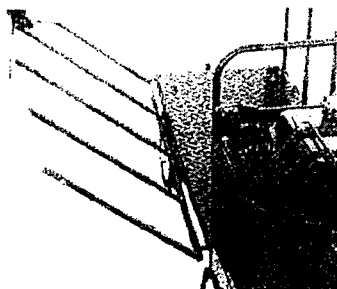
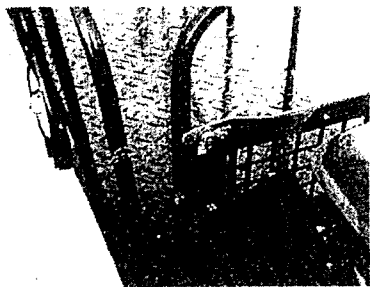
サイドフェンスの取扱い

1. サイドフェンスは前方にスライド金具を装備しており、蝶ナットをゆるめ、スライド金具を外側に倒すとサイドフェンスが傾き、荷降ろしが楽に行えます。



2. サイドフェンスを取り外す時は、蝶ナットをゆるめ、スナップピンを抜いて、サイドフェンスからスライド金具を外してください。スライドフェンスを倒しながら引き抜くと、取り外すことができます。

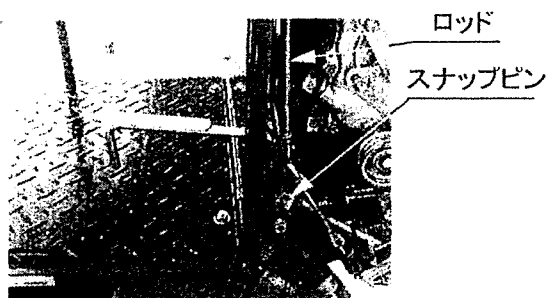
- スナップピンはなくさないように、外したサイドフェンスに差しておきましょう。
- スライド金具は、外側に飛び出さないように内側によせて、蝶ナットを締めてください。



ブレーキペダル（前）の取り外し方

収穫作業時など、ブレーキペダル(前)が作業の妨げになる場合がありますので、取り外してください。

1. サイドカバー(右)を外します。
2. スナップピンを外し、ロッドを上方に引き抜きます。
3. ブレーキペダル(前)を取り外し、ロッドは元に戻してスナップピンで止めてください。



警告

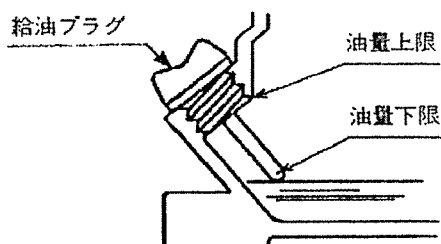
- * ブレーキペダル(前)の取り外しは、必ずエンジンを停止して行ってください。
- * ブレーキペダル(前)を取り外した後は、必ずサイドカバーを取付けてください。

4. 簡単な手入れと処置

エンジンオイル

◆給油

1. エンジンを水平にし給油口の口元まで入れてください。



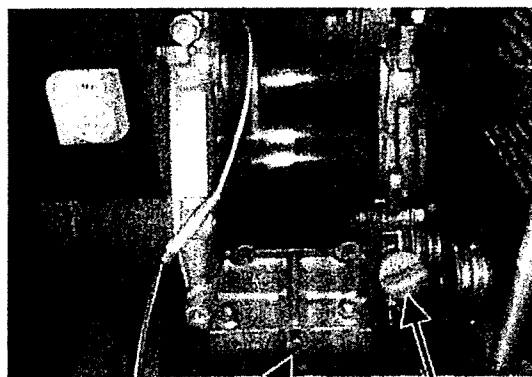
重要

* オイルはAPI分類SE以上のオイルを使用してください。

◆排油

1. 排油プラグを外し、排油して下さい。

● 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。



排油プラグ

給油栓

ミッションオイル

◆給油

1. 検油口まで給油してください。

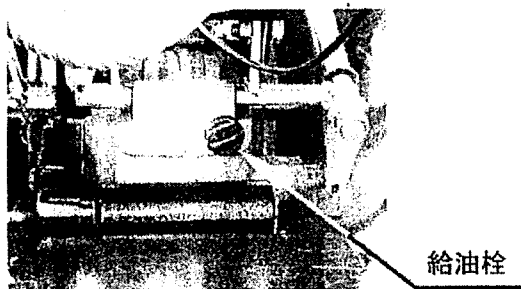
◆排油

2. 排油プラグを外して排油します。

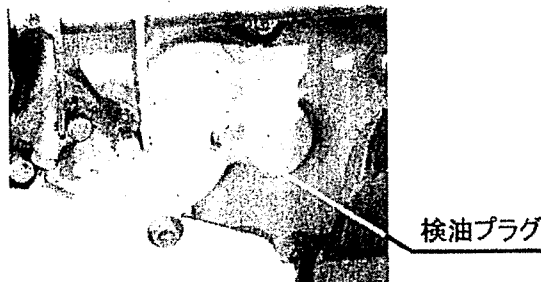
重要

* 粗悪なオイルを使用すると、機械の寿命を急激に縮めますので、販売店・農協でSAE80#又は90#とご指定の上、お求めください。(下表参照)

* 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。



給油栓



検油プラグ



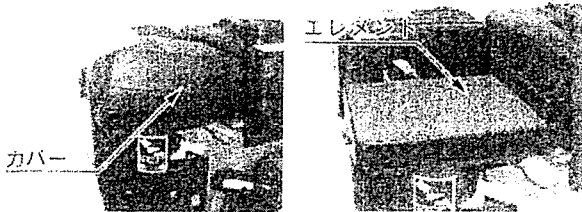
排油プラグ

項目 (オイル量)	交換		オイルの種類
	第1回目	以後	
エンジンオイル (0.5 L)	20時間使用后	50時間使用ごと	春・秋…30#又は10W-30 冬…20#又は10W-30
ミッションオイル (1.0L)	20時間使用后	年一回	SAE80#又は90#

4. 簡単な手入れと処置

エアクリーナエレメントの清掃

1. エレメントを灯油又は家庭用洗剤で洗って汚れを落とし、乾燥させてからエンジンオイルに浸し、固く絞ってから取付けます。



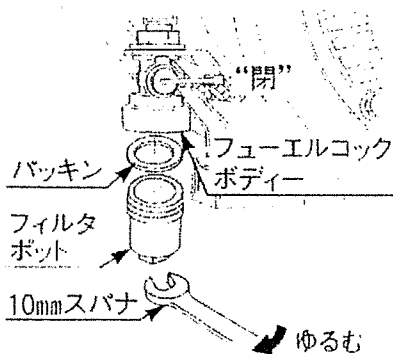
重要

- * エアクリーナが汚れていたり、目詰まりしたまま使用すると、エンジンの出力低下や故障の原因となり、エンジンの寿命に影響します。
- * 清掃は50時間ごとに行ってください。(ほこりの多い作業のときは8時間ごと又は1日1回)

フィルタポットの清掃

100時間使用ごとにフィルタポットを清掃してください。この作業はほこりのない清潔な場所で行ってください。

1. フューエルコックを“閉”にします。
2. フィルタポットを外し、ポット内部及びフィルタを灯油で洗浄してください。



重要

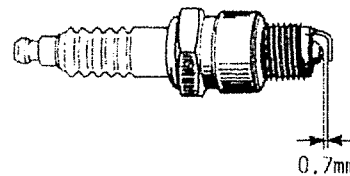
- * 取付け時、燃料もれのないように確実に締付けてください。

警告

- * 清掃時、火気厳禁。

点火プラグの調節・清掃

1. プラグ用ボックススパナでプラグを外して清掃します。プラグはサイドカバー(右)を外して取り出します。
2. 電極が消耗して間隔が大きくなっているときは、電極間隔を0.6~0.7mmに調整してください。
3. 電極に多量のカーボンが付着しているときは、ワイヤーブラシ等で取り除いてください。



使用点火プラグ

NGK BP2HS

注意

- * 点火プラグの取り外しは、エンジンが冷えた状態で行ってください。

4. 簡単な手入れと処置

重要

- * 点火プラグを交換するときは、同じ型式のプラグを購入の上使用してください。異なった型式のプラグを使うと、失火を起こしたり、始動不良を起こしたりしますのでご注意ください。
- * 点火プラグの締付け時は、ねじ山をつぶさないように、はじめ手で締付けてから、ボックススパナで締め込んでください。
- * 点火プラグの点検・清掃は100時間ごとに行ってください。

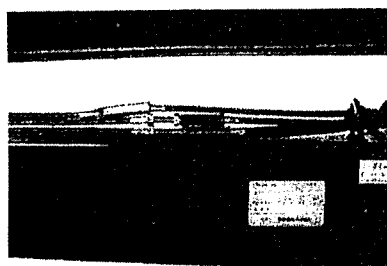
クラッチの調整

クラッチレバーは、運転操作の源となる重要なレバーです。確実に断続できるように、次のことがらについて調整してください。

◆クラッチケーブルの調節

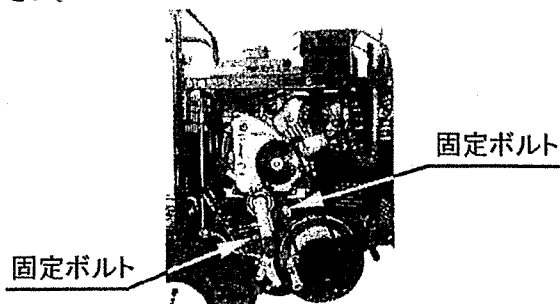
クラッチケーブルは高速用(黒色)と低速用(緑色)の2本に分かれています。調節はそれぞれのケーブルについて行ってください。

1. クラッチレバーを「低速」(または「高速」)に入れても、ベルトが滑って動力を伝えない時…調節金具を長くする。
2. クラッチレバーを中立にしてもベルトが連れ回りして、タイヤの回転が止まらないとき…調節金具を短くする。



◆エンジン上下によるベルトの調整

ベルトが伸びてケーブルの調節で対応できない場合は、エンジンフレームの固定ボルト2本をゆるめて調節してください。調節後は確実にボルトを締めてください。



- エンジンを移動させた場合は、クラッチケーブルの調節をやりなおしてください。

警告

- * 調節と各部の締付けが終わったらクラッチレバーと主変速レバーを「中立」にしてエンジンを始動します。クラッチレバーを「高速」と「低速」に操作したとき、それぞれのベルトが回転し、「中立」のとき停止することを確認してください。
- * 調節が終わったら、必ずエンジンを停止してサイドカバーを取付けてください。

5. 作業が終わったら

長期格納時の手入れ

1. クラッチレバーは「中立」の位置で保管します。
2. 燃料は全部抜き取っておきます。
3. オイルを交換し、各部をきれいに掃除します。
4. エアクリーナエレメントを、掃除しておきます。
5. エンジンのシリンダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタータハンドルを引っ張って、圧縮位置(重くなる)ところで止めておきます。
6. 排気管を上方に引き抜いてからカバーをかけ、湿気やホコリのない場所に置いてください。カバーはエンジンが冷えていることを確認した上で、かけてください。

タイヤ空気圧の調節

空気圧が高過ぎても低過ぎても、タイヤの寿命を縮めます。

定期的に空気圧を調べ、適正になるように調節してください。

空気入れは、自動車用などの高圧式をご使用ください。

適正空気圧

120~140kPa
(1.2~1.4kgf/cm²)

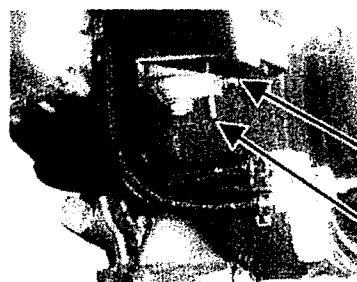
使用後の清掃

使用後は、必ずその日に清掃を行ない、各部に付いている土やゴミを落とし、各しゅう動部は錆びないように油やグリス及び防錆剤を適宜塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まると、エンジンの焼付きなどの原因になりますので、よく点検・清掃を行なってください。

燃料の抜取り

燃料をそのまましておきますと、タンクや気化器内のガソリンが変質し、始動不良・運転不調になります。

1. 燃料コックを「閉」にし、フィルターポットを取り外します。
2. 燃料コックの下に燃料受け容器を置き、コックを「開」にして、燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。
3. フィルターポットを燃料コックに取り付けます。
4. 燃料受け容器を置き、燃料ドレンネジを弛めて気化器内のガソリンを完全に抜き取ります。



燃料ドレンネジ

排出口

警告

- * 燃料を抜く時は火気厳禁、風通しのよい所で行なってください。
- * 燃料がこぼれた時はきれいにふきとってください。
- * 燃料パイプは自然劣化したり傷があると、ガソリン漏れして火災の原因となります。ヒビ割れが発生したものは新しい燃料パイプと交換してください。

5. 作業が終わったら

洗浄時の注意

高圧洗車機の使用を誤ると人を怪我させたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。



* 機械を損傷させないように、洗浄ノズルを拡散にし、2m以上離して洗車してください。もし、直射したり、不適切に近距離から洗車すると、

1. 電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
2. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例)(1)シール・ラベルの剥がれ

(2)電子部品、エンジン・トランスミッション室内、安全キャブ室内等への浸入による故障

(3)タイヤ、オイルシール等のゴム類、樹脂類、ガラス等の破損

(4)塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

6. 運搬するとき

注意

- * 積込み・積降ろしは、平坦で交通の邪魔にならない安全な場所で行なってください。
- * アユミ板はすべり止めのついた、機体重量に耐えるもので、トラックの荷台の高さ[1]に対しアユミ板の長さ[4以上]のものを使用し、確実に固定してください。
- * 足元に注意し、車速は最低速で上りは[前進]、下りは[後進]で行なってください。
- * 途中でクラッチを切ったり、変速操作を絶対にしないでください。落下・転倒のおそれがあります。
- * トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を、積込み・積降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは、法に定められたタンクに移して運搬してください。火災のおそれがあります。

自動車(トラック) への積込み、運搬

1. トラックを平坦な場所に止め、駐車ブレーキを掛けます。
2. アユミ板を確実に固定します。
3. 上り、下りは[最低速]で走行します。
4. クラッチレバー、副変速レバーは[低速]に入れます。
5. 機体はロープで確実に固定します。
6. 燃料コックレバーは「閉」にします。
7. 雨天時には、エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせてください。

重要

- * ロープを掛けるとき、変速レバーやカバー、小物部品にロープが触れないように気をつけてください。破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
- * 雨天時に、エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水が入りエアクリーナの性能が低下します。
- * 燃料コックレバーを「開」のまま運搬すると、キャブレター内でガソリンがオーバーフローし、エンジン始動が困難となります。また、クランクケース内にガソリンが流入することもあります。

付記 主要諸元・主な消耗部品一覧表・標準付属部品

主要諸元		
型 式 名	KS-3C-6	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2200
	全 幅 (mm)	435
	全 高 (mm)	1540
	装 備 重 量 (kg)	116.5
エ ン ジ ン 部	形 式	GB130LN
	排 気 量 L(cc)	0.126(126)
	重 量 kg	13.5
	連続定格出力 kW / rpm (PS / rpm)	2.3 / 1800 (3.1 / 1800)
	最大出力 kW(PS)	3.0(4.2)
	最大トルク N·m / rpm (kgf·m / rpm)	15.3 / 1400 (1.56 / 1400)
	エアクリーナ	半湿式
	始 動 方 式	リコイルスタータ
	点 火 方 式	無接点マグネット点火
	点 火 プ ラ グ	NGK BP2HS
	使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン
	燃料容量 (リットル)	2.5
	潤滑油容量(リットル)	0.5
伝 動 部	Eクラッチ	ベルトテンション
	エンジン～1軸	Vベルト
	1軸～車軸	ギヤ、チェン
	変 速 段 数	前進4段、後進4段(副変速付)
装 着 タ イ ヤ	3.50-5	
車 輪 幅 (タ イ ヤ 外 幅 : mm)	300, 350, 390	
軸 距 離 (mm)	785	

標準付属部品

品名	数量/台	備考
両口スパナ	1	(10-12)
プラグボックス	1	
取扱説明書	1	

主な消耗部品一覧表

品名	品番	数量	備考
Vベルト SA-29	0751000029	1	
ローエッチコグベルトSA-33	349110040211000	1	
ケーブル(ブレーキ)	349110040327000	1	
ケーブル(テンション)	349110040411000	2	
ケーブル(スロットル)	349110040419000	1	
ワイヤハーネス	349110040425000	1	
オイルシール	0950255208	2	車軸
マルアタマピン	347210000703000	4	タイヤ取付用
スナップピン	0551550080	4	タイヤ取付用
点火プラグBP2HS		1	エンジン

トラブルと処置

■エンジンが始動しないとき

原因	処置
●始動の手順が間違っている。	正しい順序で始動する。
●タンクにガソリンを入れたまま1ヶ月以上保管しガソリンが腐った。	タンク、キャブレター内の腐ったガソリンを排出し、新しいガソリンを入れる。
●チョークを引いた(閉じた)状態でリコイルを何回も引過ぎガソリンを吸いすぎた。	チョークを戻し(開き)リコイルを引くか、点火プラグを外して乾燥させる。
●エンジン停止後、燃料コックを閉じないで本機を前に倒したり、車両で運搬したためキャブレターがオーバーフローした。	クランクケース内にガソリンが混入していたら新しいエンジンオイルと交換する。
●エアクリーナエレメントが目詰まりしている。	エレメントを外して清掃する。 または新しい物と交換する。
●点火プラグの火花が弱い、飛ばない。	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。 または新しい物と交換する。

■エンジン回転が上がらない、不安定、出力が不足するとき

原因	処置
●エンジンが暖まってもチョークを引いた(閉じた)まま運転している。	チョークを戻す(開く)。
●エアクリーナエレメントが汚れている。	エレメントを外して清掃する。
●スロットルケーブルの引っ張りが不足している。	ケーブルのセット位置を調整する。

■エンジンが揺れる、異音が発生する

原因	処置
●エンジン取付けボルトがゆるんでいる。	取付けボルトを締付ける

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業効率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。



陸用小型ガソリンエンジン自主規制委員会

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の
小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主
規制に適合していることを示しています。

品番 : 349110040901005



関東農機株式会社

本社工場／本社営業所	〒323-0819 栃木県小山市横倉新田 493 TEL 0285(27)3271(代) FAX 0285(27)4627
鏡石工場／福島営業所	〒969-0403 福島県岩瀬郡鏡石町久来石大町 57 TEL 0248(62)4131(代) FAX 0248(62)4133
盛岡工場／東北営業所	〒028-4132 岩手県盛岡市玉山区浜民字岩鼻 20-55 TEL 019(683)1911(代) FAX 019(683)1119
九州営業所	〒561-0894 熊本県八代市上片町 1351 TEL 0965(31)0730(代) FAX 0965(31)0760

・製品のご相談は下記の販売店へ